

おすすめの1冊 『七人の敵がいる』 (加納朋子/著 2010 集英社)

“女は女の敵である” “男もたいがい敵である” “当然夫も敵である” 目次を開いただけで苦笑い。ページをめくれば大笑い！そしてちょっと泣けて、うんと頷ける。嫁姑問題から自治会にPTA…働くママのサバイバル小説！！

『だれも知らない小さな国』 (佐藤さとる/著、村上勉/絵 1959 講談社)

今振り返ると、もったいないと思うほど本を読まなかった中学生の頃の私が、夢中になった[コロボックル]シリーズの第1巻。吸い込まれるような佐藤さとるさんのお話に、定番村上勉さんの挿絵もピッタリ。小中学生はもとより、大人の方も童心にかえってぜひ読んでみてください。初版から50年以上経った今、高知県出身の人気作家有川浩さんが、佐藤さんの跡を継ぎ、続編を書かれるのも今から楽しみ(o)

【ちびままこ】



会
員
募
集
中

お問い合わせは事務局まで

いつでも



◆朗読クラブの

日高村文化祭発表で想う◆

今年は新しい仲間を5人も迎え、毎週水曜日に練習を積んで、いざ本番当日。

お決まりの白いジャンパーに着替え、直前の練習に入ると、いつもはとっても上手にセリフを言えるのに、緊張のためセリフがどうしても口から出なくなったりしました。本番でマイクに声を当てるための高低の調整も終わった後、「じゃ、しっかりね」と舞台を降りて客席に回り待てど、緞帳が上がらず。

どうしたのかなと裏にまわると、急な腹痛でとのこと。酒蔵ホールでの舞台は易々と上出来でこなしたのに、やはり舞台は魔物。でも、この緊張をものともしないで楽しむ子、この緊張に踏ん張り耐えられる子、たまたま今日は耐えられないと教えてくれた子、これらを知り得たことだけをとっても、朗読クラブの文化祭参加は大変有意義なものでありましたが、お子さんの性格の把握をしての対応ができなかったと反省もしております。対応いかんで出演できたのかも。ごめんなさいね。

でも、「にんじゃもへえ」は気合いが入った素晴らしい出来でした。皆さまお疲れ様でした。

こんなことあるある!? 実話だからおもしろい!



朗読『にんじゃもへえ』



※臨時の話し合いが入る場合は、図書館のHP内「日高読もう会」のお知らせに掲載

次回の実行委員会は、1月17日(火)19時から

